

# 令和3年度 研究の概要

## 1 研究主題

進んで思いや考えを伝え合う子どもの育成  
～コミュニケーションを図る力を育む外国語活動の実践を通して～

### <本校で捉えるコミュニケーションを図る力>

- 言葉に興味・関心をもち、伝え合うことの楽しさを感じながら、互いを理解する力
- 身に付けた語彙や技能を活用して思いや考えを伝え合う力
- 多様な文化や価値観を理解し、尊重しようとする態度

## 2 主題設定の理由

### (1) 社会の変化と子どもたちの未来

人工知能（AI）の飛躍的な進化等により、子どもたちを取り巻く社会は大きく変化している。生活はより快適に便利になるが、その反面、子どもたちは、今までにはなかった様々な困難や課題に直面していくことが予想される。子どもたちが、このような時代や未来を生き抜いていくためには、社会の変化に主体的に関わり、自らのよさを発揮しながら他者と協働し、よりよく生きていく力を身に付けることが必要となってくる。さらに、グローバル化が急速に進展する中で、生涯にわたる様々な場面で外国語によるコミュニケーション能力も必要とされている。国内においても外国人や外国語に接する機会が増えており、子どもたちに他者を尊重し、他者に配慮しながら人と関わり合う力を育てていくことが重要である。

### (2) 本校の子どもたち

本校の子どもたちは、明るく素直であり、行事や児童会活動にも積極的に取り組むことができる。異学年交流も年間を通して定期的に行われ、学校生活を楽しんでいる子どもが多い。一方、授業や活動において、自分の思いや考えを話すことに抵抗感をもっている児童が少なくない。自分に自信がなく、人前で話すことに恥ずかしさを感じていたり、話したいことはあっても、どのように表現したらよいのか分からなかったりと原因は様々である。

本校では、昨年度まで道徳科の授業づくりを研究の中心に据え、実践を重ねてきた。4年間の研究を通して、導入や資料を工夫することで道徳的価値を「自分ごと」として捉えることができるようになったり、書く活動を継続して取り入れたことで自分自身の考えの深まりを自覚できるようになったり、成果をあげることができた。しかし、話し合い活動においては「話し合いが途中で停滞することがある」「決まった子どもたちばかりの発言で話し合いが進んでしまう」という課題が残り、今後は、子どもたち一人一人が思いや考えを進んで表現できるようになるための手立てを考えていく必要がある。

### (3) 主題及び副主題設定の理由

本校の学校教育目標は、「夢をもち 心豊かで たくましく 輝く子どもの育成」である。夢があるからこそ、目標を立てて前向きに頑張ることができる。また、子どもたちが夢を意識し、自らの夢について考えるプロセスも貴重である。しっかりと自分の将来について考え、行動していくことがこれから生きていく上で重要である。

今年度は、昨年度の課題を受け、研究主題を「進んで思いや考えを伝え合う子どもの育成」とした。また、子どもたちがこれからの国際社会で活躍していくための土台づくりとして、副主題を「コミュニケーションを図る力を育む外国語教育の実践を通して」と設定し、外国語科と外国語活動の授業づくりを研究の中心に据えた。

自分の思いや考えを伝え、他者とコミュニケーションを図るためには、言葉が必要である。言葉を介

しながら、私たちは相手を理解し、さらにはその背景にある文化や社会を理解していく。子どもたちには日本語のみならず、外国の言葉にも興味をもち、伝え合うことの楽しさを感じながら相手を理解し、コミュニケーションを図ることができるようになってほしいと考える。

今年度は、新しい研究主題の1年目でもあり「コミュニケーションを図る力を高める授業づくり」を中心に、必然性のある活動を設定しながら、言葉を通して伝え合う力の育成を目指していきたい。

さらに、全教科等における共通実践事項を「言葉を通じて人と関わる言語活動の充実」とし、外国語科・外国語活動での取組と関連させながら、学校の教育活動全体を通して進んで伝え合う子どもを育てていきたい。

### 3 目指す子どもの姿

- 言葉を通じて自分の思いや考えを伝え合うことができる子ども
- 社会における多様性を理解し、課題解決のために協働で取り組むことができる子ども
- ふるさとのよさを知り、郷土への愛情をもつ子ども

### 4 研究の仮説

様々な文化や価値観にふれる機会を設定するとともに、言葉を通じて人とかかわる言語活動の充実を図ることで、進んで思いや考えを伝え合おうとする子どもが育つのではないだろうか。

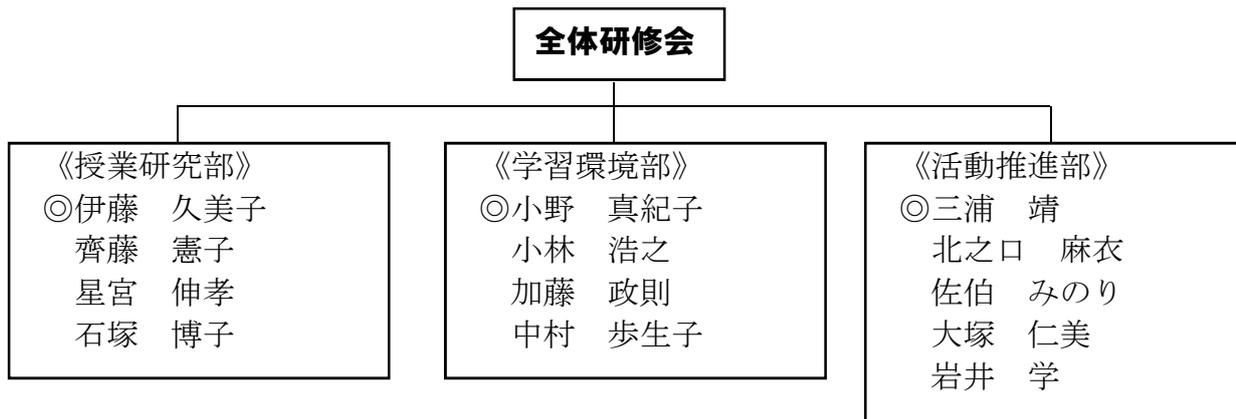
### 5 研究の重点

- コミュニケーションを図る力を高める授業づくり
  - ・外国語でコミュニケーションを図る必然性のある活動場面の設定
  - ・学びを実感できるめあてと振り返りの工夫
  - ・話し合いや交流を取り入れた学習活動の充実
- 人と関わることのよさを実感できる活動の工夫
  - ・丘の子班を生かした活動の工夫
  - ・学級活動の充実（エンカウンター、レクリエーション活動等）
- 様々な文化や価値観にふれる機会の設定
  - ・ALT、外部指導者との交流
  - ・読書月間（外国文学や外国の絵本に親しむ）
  - ・社会科、道徳科、国語科、音楽科など各教科との関連

### 6 研究の方法

- ①学年研究計画の立案
- ②児童の実態把握（外国語アンケート①）
- ③授業実践
- ④資料の蓄積
- ⑤学習環境の工夫
- ⑥家庭・地域との連携
- ⑧校内授業研究会の実施
- ⑨児童の学習状況把握（外国語アンケート②）
- ⑩成果と課題の把握

## 7 研究の組織



## 8 研究推進計画

月	研究・研修会	研究・研修内容
4	研究推進委員会① 全体研修会①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究計画の作成</li> <li>・研究の方向性の確認 (主題、副主題、進め方、研究組織等)</li> </ul>
5		○児童の実態把握 (外国語アンケート①)
6	拡大教科部会① 拡大教科部会②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画訪問の授業構想、役割分担等</li> <li>・計画訪問指導案検討</li> </ul>
7	指導主事計画訪問 (7 / 16) 授業研究会①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定授業 ( )</li> <li>・中学団での研究会</li> </ul>
8	全体研修会②	・外国語活動・外国語科に関する校内研修
9	授業研究会② 授業研究会③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学団での研究会</li> <li>・高学団での研究会</li> </ul>
10	全体研修会③ 授業研究会④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前学期の成果と課題の共通理解と後学期の方向性の確認</li> <li>・低学団での研究会</li> </ul>
11	授業研究会⑤ 授業研究会⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学団での研究会</li> <li>・高学団での研究会</li> </ul>
12		○児童の実態把握 (外国語アンケート②)
1	全体研修会④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県学習状況調査の結果分析と考察</li> <li>○研究集録作成の準備</li> </ul>
2	研究推進委員会②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度の研究の方向性検討</li> <li>○単元配列一覧表の見直しと修正</li> </ul>
3	全体研修会⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の研究の成果と課題の共通理解</li> <li>・来年度の方向付け</li> <li>○研究集録完成</li> </ul>

↑

日常の授業実践・資料の蓄積・学習環境の工夫

↓

地域・家庭との連携

## 9 研究の全体構想図

